

伝えたい
残したい
わがまちの
誇り



ふるさととの 情景

VOLUME

4

天野地区
天野山金剛寺の正御影供



天

野山金剛寺の正御影供は、弘法大師の命日である4月21日に修される法要であり、平安時代の承安2年（1172）に阿観上人が当寺を再興し、御影堂に弘法大師の御影を安置したことに始まったとされます。

当日は法螺貝を吹く山伏を先頭に僧侶、檀家、稚児の行列が本坊から伽藍へと進みます。本来、金堂でとり行われてきた祭礼は、修理工事のため、五仏堂で営まれています。法要の後半には五仏堂前から百味飲食の供物が御影堂に運び込まれ、そこが祭礼の場に。やがて法要が終ると、一同はもと来た道で本坊に戻ります（写真①）。

百味飲食は、正御影供の法要の中で行われる民俗行事で、地域の人々が手作りした色とりどりの供物が弘法大師の御影に供えられます。



天野山金剛寺

②五仏堂前での祭礼③地域の人たちによる観音講④様々な種類がある百味飲食の供物のひとつ
※天野山金剛寺は河内長野駅から南海バス「天野山」下車すぐ。

ふるさととのひと

松本 健さん

金剛寺といえば、子ども頃、境内を走りまわったことや正御影供の餅まきを楽しみにしていたことを思い出します。20代の頃は都会に憧れていましたが、年を重ねるに従って、ふるさとの良さがわかるようになってきました。正御影供のほか、節分や青葉まつり、美しい紅葉、年末の鐘つき、冬の雪景色など四季の変化を感じさせてくれる金剛寺は、私たちに欠かせないものとなっています。

